す購買力が低下することが予想される。町としての対応策を伺う。

高薄町長

平成26年度も引き続きプレミアム商品券や応援商品券の発行、住宅リフォーム等の助成を実施していく。将来、小規模農業施設に関連する企業を創出して町内の経済循環力を高めるようにしていきたいと考えており、今後も町内での購買運動を進めるよう商工会とも連携を強めていく。

健康長寿社会へ、医療・介護のICT化の活用を

安田　薫 議員

①情報通信技術（ICT）による保健・医療情報のデータベースや電子カルテを、関係する医療機関で共有を行い、医療費の抑制につなげてみてはいかがか。お薬手帳や関係機関の情報共有についての清水町の現状について伺う。

②過疎化が進む地方の医療機関の例として、リハビリを医療の軸として経営の安定化を図り、ITの活用によって人と企業を上手に活用することができている実例がある。清水町においてもICTを活用して医療と介護の融合を進めてみてはいかがか。

高薄町長

①現在、町内医療機関で電子カルテを導入しているのは1医療機関であり、お薬手帳については紙のものである。ICTによる情報の共有により、診療の一貫した提供、重複した薬の処方や検査の防止が図られ、医療費の負担軽減が期待されているが、安全対策が確立されない限り、進み方が遅いと言われている。

②本町の場合、医療施設や介護施設はすべて民営であり、すべてICT化されないと進まない。また、十勝管内のすべてがICT化を推進しなければこのつながりができない。ICT化が確立される状況になれば良いと思っているが、現状では今すぐ導入するというのは難しい状況で、十勝全体で連携しながら研究していきたい。

公共施設の老朽化対策

原　紀夫 議員

本町の公共施設は、30年以上経過した割合が6割を超えており、管内一高く、橋梁や道路を加えると、今後の維持管理費の増加に財政力がついていけないことが予想される。

本年度予算を見ても、公営住宅建て替えや消防庁舎建て替えの大型予算以外は手付かずの苦しい現状にある。数多い施設の改修は避けて通れないものであり、人口減少、高齢化の進む中で統合や廃止を含め早急に取り組むべきだ。現状どのような計画で進めようとしているのか。また、今後の公債費についての見解を伺う。

老朽化等により外壁塗装工事が予定されている若松団地。

高薄町長

改修計画については各課に指示しており、橋梁にかかわる改修計画、長寿命化計画はすでにできている。すべて平成26年度の早い時期に改修計画案をまとめていきたい。

今後の公債費については、現在の公債費比率から財政状況が順調に回復していると理解していただきたい。

職員採用計画

原　紀夫 議員

本町の職員採用は、過去の財政状況の厳しい中で極力採用を控えてきたため、若手職員が少なく、高年齢職員が大半を占める状況にある。

昨年度は多くの職員を採用したが、これらは子育て支援や保育所関係が大半で、一般事務職員は少数にとどまっており、将来の職員構成が危惧される。過去の町長答弁でも120名を目標と答えていたが、現在120名の事務職員である。これを上限として事務改善を進め、年功序列での登用を廃止し、意欲的な若手職員を幹部として登用すべきと考えるがいかがか。

高薄町長

120名というのは、当時の行財政プランの総体をきめた財政状況の中で人数を定めているのであり、固定したものではない。

20代、30代が少ないので補填していかなければならない。また、地域採用枠や年齢層による枠、専門的な方の採用も考えなければならない。

役場の仕事は経験が問われることが多く、年功序列がある程度必要で、また、人事評価をするのが非常に難しく、意欲的な若手職員の登用をなかなか実行できない現状である。

閉会中の委員会活動

総務文教常任委員会

ふるさと寄付金の取り組みについて
その他所管に関する事項について

産業厚生常任委員会

入所型老人介護施設について
その他所管に関する事項について

議会運営委員会

議会の運営とその諸規定について
議長の諮問に関する事項について